



## 村人自身による 自然資源の管理と利用を目指して

ラオスの人たちにとって、森は果物やキノコ・タケノコ・魚などの食料だけでなく、建材や薪、薬、染料などを恵み、また、これらの販売によって現金収入ももたらしてくれる資源の宝庫。しかし近年の経済成長を優先する政策の下、プランテーションや鉱物資源の開発に伴う森林の破壊や強引な土地の収用によって、村人の暮らしが破壊されてしまう例があとを断ちません。村人自身が自然資源の管理・利用に主体的に関わり、安定した暮らしを実現する方法の確立が求められています。



アラン村の建設中のダム

### 農村部住民による自然資源の 管理・利用支援プロジェクト

**【活動概要】** 順調な経済成長を遂げつつあるラオス。この発展を支えるのは銅をはじめとする鉱物資源の産出や主として水力発電による電力、プランテーションで生産されるゴムやユーカリ、サトウキビなどの商品作物の輸出です。人口の6割がまだ農村に暮らすラオスでは、人々は森と耕地からの産物で暮らしを支えています。開発政策の下、地域住民の森や耕地が政府から許可を得た企業に囲い込まれたり、収用され、正当な補償も得られないケースが頻繁に起こっています。

こうした状況を受けて、ラオス事業では、日々の暮らしに欠くことのできない村の森の範囲を地図化し、村人による河川利用の実態も明らかにしつつ、自然資源に対する住民の法的な権利に関する研修を実施するなどして、住民自身による自然資源の管理と利用を支援する活動を行っています。また、農家の収入向上を目的とした農業技術研修や、衛生的な水を確保するための井戸の掘削や補修のための研修も行っています。

**【成果】** 2018年度は、4月にラオス政府から3年間の新規活動の許可を得ることができました。これを受けてアサパントン郡とピン郡からそれぞれ5村ずつ選んだ活動村で、さらに活動に必要な基礎データの収集を行い、村ごとに活動内容の詳細を決めることができました。

まず住民による自然資源の管理・利用のための仕組みをつくる活動とし



パンフレットを使った井戸の修理研修の様子



村の宅地地図作成の様子